

オウム対策住民協議会

『オウム真理教犯罪被害者救済法』の現状とこれから

—オウム対策住民協議会 第20回学習会要旨—

5月15日(土)にオウム真理教(現アレフ)対策住民協議会が主催した第20回抗議デモには約250名が参加し、引き続き、地下鉄サリン事件被害者対策弁護団事務局長中村裕二弁護士と地下鉄サリン事件被害者の会代表世話人高橋シズエさんが、「地下鉄サリン事件から15年」のビデオを紹介した。このビデオでは、被害者や家族、そして、色々な立場で被害者救済に関わった方々の思いがインタビュー形式で語られた。その内容を以下に要約する。

「I」被害者の思い

1. 地球が襲われたと思った方
いつもの通勤電車で被害にあい、地下鉄の車両からやつとの思いで地上に出た。うす暗い空を見て何者かが地球を襲ったと思いつつ意識をなくしたが、病院で「サリンはこれか？」の医者の声を聞き、実験台でしかない自分を感じた。今でも、体が覚えているのか、事件の起きた3月中旬頃から5月初めにかけて体調が悪い。
2. 娘をなくした母親

連絡を受け、ようやくの思いでたどり着いた病院の地下の冷蔵庫に、33歳の娘は、裸のまま胸の切り口にテープを張り付けて置かれていた。こんなやり方をするのかと憤った

が、憤慨は、13年、15年続いている。13年間憤慨した父親は悲しみの深酒が原因で他界し、私は1人の寂しさや心細さに慄いている。願わくば、子を亡くす親の気持ちを判ってほしい。

3. 車いす生活になった妹を看る家族

障害が残る車いす生活になった妹が病院を退院する時、医者は専門家のケアを受ける方が患者も安心すると施設を勧めた。高齢の父母の面倒もみているからと、家庭での介護を選んだが、多くのヘルパーさんに支えられて維持できたのが実際だった。どうも障害者と高齢者へのサービを両方受けることができないように、障害者サービスを受けて

鳥山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会

いる。妹が年をとった時のことが心配で、1人になっても生きていけるような施設を望んでいる。

「II」被害者救済に

関わった方の思い
—あの時とこれから—

1. 評論家 江川紹子氏
一報を聞き、オウムだとすぐ判った。声高に警告したのに、結局非力だったと自分を責めた。事件の風化の背景には、単純化した強いメッセージを流すマスコミと、30秒以上のメッセージを聞けなくなった日本人の両者が、1つの事を探り続けることを許さない現状があると思う。これでは、事件の教訓を生かしているとはいえない。



2. 聖路加国際病院救急医師 奥村徹氏

あの日、病院では「事件の原因と治療法の情報収集、診療スペースの確保」といった方針が早い段階で立てられ、細かい記録も残された。この記録は、公式の報告書がないサリン被害では、今後に役立つものになる。ただ将来のためには、普段の救急医療体制を固めることが求められている。

3. 元警察庁長官 國松孝次氏

犯罪被害者救済法に至る流れは、被害者の立場からみれば、後追いで遅すぎると思われるだろうが、サリンを取り締まる法律もな

かつたことを考えれば、概ね良好に歩んだと了解している。警察としては、唯一、坂本事件の対応が悔やまれる。団体の名前を変えれば存続できるなど許されないので、破防法の適用を真剣に考える時期だ。

4. 元警察庁長官房犯罪被害者対策室長 太田裕之氏

被害者対策室は、平成8年の被害者対策要綱をもとに、それまで警察官が個々に対応していたケア、とりわけ経済的支援に組織的に対応するべく作られ、サリン事件被害者にアンケート実態調査・追跡調査も実施した。この結果は、一般犯罪被害者と同じ扱いしかできなかったテロ事件被害者への支援の基準となった。

5. 前検事総長 但木敬一氏

オウムをどう破産させるか問題だった。被害者の損害賠償額はオウムの資産を大幅に下回るため、国も損害賠償を請求したが、国の請求権の方が強く、被害者にわたる額が少なくなる結果になり、政治決断で国の債権放棄が承認されたと記憶している。これは、テロ被害を他人事ではないという国民の了解があったからできたと思っている。限界を早く見切らず、出来ることはないかという気持ちで、最後までもち続けることが大事と考えている。

「III」終わりに

最後に、講師の中村裕二弁護士と高橋シズエさんは、「救済法施行から1年半が過ぎ期限まで約半年を残すが、すでに申請は、当初の千〜二千人の申請、15億5千万円の補償」の見込みを大幅に超え、5千人の申請、20億円の補償に至った。これは、鳥山を初めとする皆さんの協力がなければできなかったこと」と頭を下げられた。更に「麻原説法のテープを高く売りつける、賠償責任を道義的責任にすりかえるなど、昔のオウムを彷彿とさせる昨今の反社会的行為を皆さんと一緒に弾劾したい」と呼びかけられた。

新しい参加者で

活動に広がりが

晴天の中行われた第20回抗議デモ・学習会には250名が参加し、抗議デモではオウム真理教が居住する施設へのデモ行進を行いました。

今回は、石川県金沢オウム真理教対策協議会から、東良勝会長と越崎順一会長代行が参加して下さり、最後まで行動を共にしていただきました事は、私たちの活動へ力強いエールとなりました。

又、前回学習会の講師川島堅二氏が、ご自分の学校、恵泉女学園大学人間社会学のゼミの生徒約30名と一緒に参加して下さいました。

学生の皆さんがこれだけ参加してくれたのは、私たちにとってもはじめてであり、学生がどの様な思いを抱いたのか興味深いものがあります。20回目を迎えた抗議活動も、この様に絆を深め、活動の広がりを得たということは嬉しいことです。

明日への活動へ勇気づけられもしました。ただ、抗議デモ行進時のシユプレヒコールに対する苦情も出て来たりと、改めて活動を続けるうえでの問題も起きています。

私たち住民協議会も、オウム真理教「解散・解体」運動を続けている意義を感じながらも、常に問題を解決しながら前に進まなければなりません。

変らぬ皆様のご協力をお願いし、ご意見を聞かせていただきたいと思います。

第20回抗議デモ・学習会のアンケート報告

【実施日】 2010年5月15日(土)

【回収枚数】 99枚

【開催情報の入手方法】 協議会ニュース17、チラシ13、
広報車2、町会自治会回覧34、その他40

【学習会及び協議会活動への皆さまの感想】

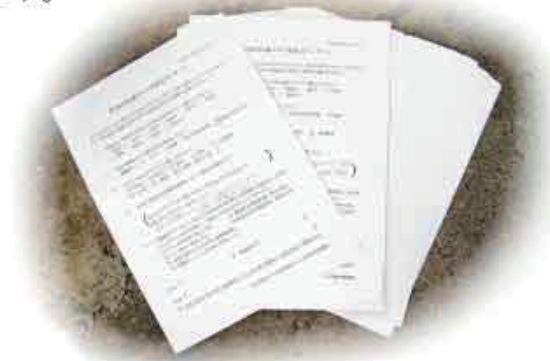
- ・チラシ配りをしているにもかかわらず受け取ってくださる人が少ないのは寂しい。皆さんのオウムに対する気持ちが薄れてゆくのは恐ろしい気がします。
- ・オウムのサリン事件は、広島・長崎の原爆投下と共に日本人が後世に語り継がねばならない出来事です。烏山地域の方々のご努力に心より敬意を表します。
- ・DVDが長すぎる。最初の部分の当事者の訴えの所だけで十分。
- ・いつも拡声器の調子が悪くて言葉が途切れ、何を訴えているのか判らない。
- ・サリン事件にあった被害者も最初は物扱いされたとのこと、とても悲しく思いました。
- ・被害者の方の生の声(DVD)は、初めて聞き心が痛んだ。事件の再発を防止するには、風化させないための粘り強い取組が必要だと思う。協議会の活動を支援します。

・今日のビデオは大変良いと思いました。お二人の講師の方、ありがとうございました。

・安心して暮らせる街を確保するために、引き続き協議会の活動は必要と感じる。抗議デモの最中、自動車運転中の人から「ガンバレ！」の声援を受けた。

・アレフ幹部が会場に来ていたが、被害者の悲しみ、取り返しのつかない事態を見せてやりたかった。風化させない行動に協力してゆく。がんばれ！！

・DVDを拝見して改めて事件の大きさを再確認しました。被害者の方々に政治の方で、もっともっと協力してほしいと感じます。



抗議デモ・学習会に多くの若い女性が参加!!!

上の記事の「開催情報の入手方法」のその他が40という数字にお気づきでしょうか?この40には、第19回学習会で講師を務めてくださった先生が勤務している大学の「学生」31人が含まれています。教授の声かけに賛同した学生は、オウム真理教の所業を聞くことも、デモへの参加も初めての経験だったようです。この経験を、1人が何人かにでも伝えてくれれば、「烏山の輪」が若い人たちに伝わって、風化を水際でストップさせるのも夢ではないと、私たちも期待した1日でした。彼女たちの声をご紹介します。

- ・デモ行進をするだけだと考えていたので、抗議文を読んでも手渡すとは思っていませんでした。
- ・私たちの世代はオウムの事は知らない人が多いので、学校などに講演に来てくれると勉強になる。
- ・住宅地に今でもオウム真理教の施設があり驚いた。オウムは遠いものと感じていたが、意外に身近で恐怖を感じた。
- ・デモ行進をしている際、商店街などにいる住民の中で、見向きもしない人や笑っている人もいて、住民の無関心さ

が気になった。

・卒業論文で、オウム真理教の今後の活動をテーマに書こうと思っているので、学習会などには積極的に参加したいと思います。

・DVDに登場した被害者の一言一言が心に響きました。

・皆さんの熱意がとても伝わってきました。

・初参加で、デモというもの自体もはじめてで、驚いています。自らの主張を大声で示すというのは勇気のいる行動なので、すごいと思いました。



住民協議会活動報告

5月8日(土) 抗議デモ・学習会のチラシ配り
5月14日(金) 抗議デモ・学習会の広報車活動
5月15日(土) 抗議デモ・学習会の広報車活動
5月15日(土) 抗議デモ・学習会のチラシ配り
5月15日(土) 第20回抗議デモ・学習会
5月21日(金) 実行委員会

5月22日(土) 烏山下町まつり募金活動
5月31日(月) 協議会ニュース96号初校正
6月3日(木) 事務局会議
6月7日(月) 協議会ニュース96号再校正
6月9日(水) オウム真理教対策関係市町村連絡会の「報告会」参加
6月14日(月) 協議会ニュース96号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。